

目的や場面、状況等に応じて読む力を育成する中学校英語科学習指導の在り方（第二年次）

—概要や要点を捉える「読み方」のよさに気付き、価値付ける活動を通して—

会津坂下町立坂下中学校 福島県教育センター 長期研究員 安藤 武志

1 研究の趣旨

中学校学習指導要領解説外国語編「読むこと」領域には、育成する資質・能力として、「必要な情報を読み取ること」、「概要を捉えること」、「要点を捉えること」の三つが挙げられ、この育成に当たっては、目的に応じて、また自分の置かれた状況などから判断して捉えるなどの学習活動が大切であると述べられている。つまり、生徒が目的や場面、状況等に応じて読むことができるような授業改善が求められていると言える。

第一年次研究では、読解活動①から⑤で構成した読解プロセス^{※1}を取り入れた。その際、読解方略という読む足掛かりを適宜取り入れながら、読解活動①から③においては英文一文ずつの理解、読解活動④と⑤においてはまとまりのある英語の文章の理解を促した。その結果、読解活動①から③においては十分な成果がみられたものの、教師が読解方略を与えすぎたこともあり、まとまりのある英語の文章については生徒が主体的に概要や要点を捉えることができなかった。

そこで、第二年次研究では、読解活動④と⑤に重点を置き、生徒が読む目的を明確にして文章を読み、概要や要点を捉えることができるようにしたいと考えた。その際、教師が読解方略を与えるのではなく、生徒が概要や要点を捉える「読み方」^{※2}に気付き、価値付け、活用できるようにしていきたい。そうすることで、目的や場面、状況等に応じて読む力（＝「情報を整理するために必要な情報を読み取り、概要や要点を捉える力」）の育成を図りたいと考え、以下の仮説を設定した。

※1 読解活動①は、文章全体を通して読む活動。読解活動②は、小さな意味のまとまりごとに英文を読む活動。読解活動③は、より大きな意味のまとまりごとに英文を読む活動。読解活動④は、発問に対して考えるために読む活動。読解活動⑤は、理解したことを共有して、読み直す活動。

※2 本研究では、「読み方」を「生徒が気付いた英文を読むコツ」と捉える。

中学校英語科の「読むこと」領域において、以下の手立てを講じれば、目的や場面、状況等に応じて読む力を育成できるであろう。

2 研究の概要

(1) 【手立て1】目的を明確にして読むための学習課題の設定の工夫

概要や要点を捉える「読み方」につながるよう、読む目的に合った情報を選択、抽出して、表現するような学習課題を設定する。例えば「概要を捉える」学習においては、挿絵の選択・並び替えを学習課題とし、特定の部分にとらわれることなく文章を最初から最後まで読み、書き手が述べている大まかな内容を捉えることができるようにする。また、「要点を捉える」学習では、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を問う学習課題とし、文章全体を読み通した上で複数の情報を取り出し、どの情報とその説明の中で最も重要であるかを判断できるようにする。

(2) 【手立て2】読み取った必要な情報や考えを共有し、「読み方」に気付く活動

生徒が英語の文章から情報や考えを読み取る際、その根拠となる箇所に線を引かせ、「なぜそこに線を引いたのか」という視点で対話活動を行う。そのような共有の場を設けることで、キーワードやキーセンテンス等を拾いながら全体の内容をまとめたり、各段落の主な内容を捉えたりすることを通して、生徒が概要や要点を捉える「読み方」に気付くことができるようにする。

(3) 【手立て3】「読み方」を生徒自身で価値付ける振り返りの工夫

生徒が気付いた「読み方」を別の英語の文章を読む際にも活用することで「読み方」のよさを実感する場面を設けたり、複数の「読み方」を比較することでそれぞれのよさを再認識する場面を設けたりする。そのことで生徒が自分の「読み方」を振り返り、価値付け、活用しやすい状況をつくるようにする。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

学習課題の工夫等の上記の手立てにより、読む目的を明確にした読解活動④と⑤の充実が図られ、目的や場面、状況等に応じて読む力の高まりがみられた。概要や要点を捉える読みを行う際には、生徒が自ら読解活動①から③のプロセスや既習の読解方略を取り入れる姿も確認できた。

(2) 今後の課題

文章の構成や展開を踏まえて要点を捉える「読み方」に課題が残る。語句と語句の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら各段落内の構成や段落間の関係を正確に把握することで「読み方」に多様性が生まれ、目的や場面、状況等に応じて読む力の高まりにつながると思う。